



撮影：西山芳一（表紙、並びに当ページ）

姫埼灯台

新潟県佐渡市

新潟港からフェリーで佐渡島に向かう。二時間ほど経つと静かだった船内に「本船は姫埼灯台を通過し両津湾に入ります」とアナウンスが響く。遠目に白い灯台が見えた。高さ一四・二メートル。決して大きな灯台ではない。優美さ、重量感よりも華奢な印象の方が先にたつ。しかしこの灯台、日本最古の鉄製灯台として世界の灯台一〇〇選、日本の灯台五〇選に選定されている。初点灯は一八九五年。今も両津港に入港する船舶の航行目標として重要なインフラとなっている。

構造は四層からなる六角形のやぐら型。鉄製のやぐらの中央に鉄板で巻かれた円筒形の階段室があり、最上階の灯室がこのやぐらに載っているような構造だ。一階の床は花崗岩張り、二階内部の天井と壁面にやぐらの板張りが施されている。基礎柱は山型鋼とアンカーで石材に固定され、鋼板や山型鋼の接合部はすべてリベット留めだ。鋼材には当時としては高価な英国製の精錬鉄が使用されているという。齢百歳を迎えようとする老体の衰えは隠しようもなく一九九四年に構造体の耐震補強、外壁の

補修などの改修工事が実施された。

設置当時の経緯、設計にかかわる詳細な資料は現存しないとされる。日本海の風雪に晒され木製では心もとない。石材やモルタルを島内で調達することも困難だっただろう。比較的軽量かつ強靱な必要最小限の鋼材を回漕したのではと推理するのはこの写真を収めたカメラマンだ。資料がないなら調べる、探る、想像する。それが先人の遺した土木と向き合う醍醐味だと土木写真家は不敵に笑みを浮かべた。確かに知られざる物語を存分に想起させてくれる貴重な港湾遺産である。



光り方は6秒に一閃光、光達距離は約33km。佐渡に向かう船が初めて目視する光の標を放ち続けている。2009年2月、安全な船舶航行に貢献し日本の海運を支えた功績から、灯台建設の歴史を今に伝える近代化産業遺産群に認定された。